

令和元年度 相馬市公立学校研究指導委員会 資料

授業における「話し合い」充実のための取組



【監修】

相馬市教育委員会教育長	堀川 利夫
相馬市教育委員会学校教育課長	松本 一宏
相馬市教育委員会学校教育課 主幹兼指導主事	目黒 信浩
相馬市教育委員会学校教育課 課長補佐幹兼指導主事	寶 伸一
相馬市教育研究実践センター所長	管野 孝司

相馬市教育委員会

【編集委員】

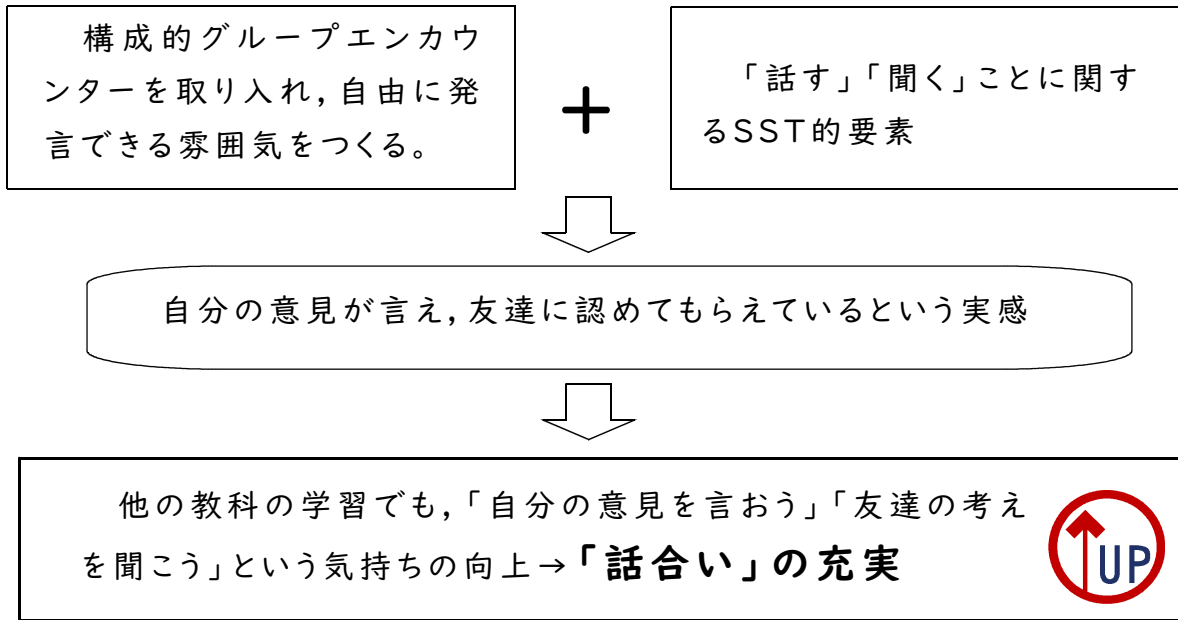
相馬市立中村第二中学校	校長	星 健一
相馬市立飯豊小学校	教頭	村上 潤一
相馬市立磯部中学校	教頭	武澤 裕子
相馬市立大野小学校	教諭	伏見 哲矢
相馬市立山上小学校	教諭	石田 諭
相馬市立中村第一小学校	教諭	屋仲 幸治
相馬市立中村第二小学校	教諭	稲葉 綾
相馬市立桜丘小学校	教諭	小丸 恭平
相馬市立八幡小学校	教諭	寺島美恵子
相馬市立中村第一中学校	教諭	山内 政俊
相馬市立中村第二中学校	教諭	馬場 正衣

授業における「話し合い」充実のための取組

相馬市立飯豊小学校 村上 潤一

- 1 教科・単元名 学級活動「友達のよさを認めよう～ブレインストーミング～」
(第5学年)

2 「話し合い」充実のための工夫(アイデア)



3 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ① 他人に認めもらうことの心地よさを感じながら,自分も相手の考えや発想を大事にし,認めていこうとする態度を育てる。
- ② 自由な発想を育て,自分の意見や考えが批判されない安心できる雰囲気の中で自己肯定感を高める。

(2) 本時の手立て

① 話しやすい雰囲気づくり

エクササイズでは,限られた児童だけが発言するのではなく,多くの児童の意見が生かされるように,発表の仕方について事前に指導する(ルール・マナーの確認)。

② 自由な発想と発言を促す

構成的グループエンカウンターエクササイズ「ブレインストーミング」を取り入れることで,正解が1つではない状況をつくりだす。間違いや失敗を恐れずに,自由な発想で意見や発言ができるように配慮する。

4 授業の実際

① 本時のねらいの確認

これから、みんなで楽しみながら、自分の考えを出し合う活動を行います。友達の意見を否定しないで、聞くことが今日のめあてです。

② ルールの確認

【ルールを守ろう】

- ・「お題」について真剣に考えよう！
- ・友達の意見をよく聞き、認めてあげよう！
- ・なるべくたくさんアイディアを出そう！

【SSTの視点】

- ◇話の聞き方：
さえぎらない・うなずきながら・否定しない
- ◇話し方：
相手に聞こえるように・相手を見ながら

③ お題について考える

もし、「わりばし」がたくさんあったら作れる物について、みんなでアイディアを出し合いました。

バット！

スゴイ！

大きな橋！

船も作れるよ！

いいね！

家も建てられるんじゃない？

④ 新聞の活用法をジェスチャーで表現しよう！



正解！

望遠鏡！

そう、マフラーです！

マフラー？



タオルじゃない？

⑤ 「ふりかえりカード」の表記

ルールを守り、友達の話を聞くことができました。アイディアもたくさん出すことができました。自分のアイディアを友達に聞いてもらえてうれしかったです。

グループで楽しくできてよかったです。ジェスチャーは、わからなくてあせったけど、グループの人の話を聞いてよかったです。

みんないろいろな意見を出してすごいなあと思いました。他のグループの意見を聞いて、こういう意見もあるんだなあと思いました。

⑥ まとめ

この授業では、普段の授業でなかなか発言できない児童も自由に発言する姿が見られた。授業後の感想からは、「話すこと・聞くこと」「意見を交流すること」のよさを実感した子どもの姿が見て取れる。学級活動(2)において「よりよい人間関係の形成」を図ることが、各授業の「話し合い」の充実につながると考える。

学び合いを大切にした『伝え合う力』の育成 ～「教育漫才」を取り入れた教育実践～

相馬市立大野小学校 教諭 伏見 哲矢

1 ねらい

- (1) 「教育漫才」の活動を通し、互いに学び伝え合おうとする力を高め、相手を思いやる気持ちや相手の立場を理解する心を育てる。
- (2) コンビ（トリオ）でのネタづくりや漫才練習等の主体的な学びを通し、「思考力」「判断力」「表現力」を高める中で『伝え合う力』を育成する。

2 自分の考えを自信をもって伝え合える児童を育てるための手立て

- (1) 「教育漫才」についての配慮事項を職員間、児童間で共通項とし、相手を思いやる活動としていくことで自分の思いを恥ずかしがらずに表現できる雰囲気をつくり上げることができるようにする。
- (2) コンビやトリオによる台本作りや互いのやりとりに自信をもって取り組めるよう教師がコーディネートする。その中で、互いの良さに気付かせながらより良い関わり方や表現の仕方を高めていくように配慮する。

3 実践計画（1・2学年…国語科3時間 3～6学年…総合的な学習の時間5時間）

- (1) 4月～5月（朝の会や休み時間などのすき間時間を使った実践）
 - ① 学習のねらいを確認する。
 - ② コンビ（トリオ）をくじ引きにより結成する。
 - ③ 台本づくりをする。 [学び合い 1]
ア テーマを決める。イ 役割を決める。ウ ネタ合わせをする。
- (2) 6月～10月（1・2学年…国語科 1/3 3～6学年…総合1/5～3/5）
 - ① 資料「漫才をつくって、やってみよう」を活用した取組 次頁 [学び合い 2]
- (3) 11月（1・2学年…国語科2/3 3～6学年…総合4/5）
 - ① 学年漫才発表会 [学び合い 3]
- (4) 12月（1・2学年…国語科3/3 3～6学年…総合5/5）
 - ① 教育漫才全校発表会

4 活動の実践



【学年漫才発表会の様子】



【レクチャーを受ける様子】



【親子漫才の様子】

5 成果と課題

- 業間や昼休みの時間を使い練習するなど向上心を持ち取り組んでいた。また、互いに見合いながら良さを分かち合うことができた。
- 三段落ちのワークシートの活用や住みます芸人のサポートにより思考・判断・表現力を高めることができた。
- 今後、継続的に活動を取り入れることにより『伝え合う力』の育成につなげていきたい。



【地域とのつながり】

「教育漫才」作品例

「例1」

◆タイトル【ほへのわたしの、おきなまの】

ほけ・つっみ： 「ほ、へ、わたし。」

つっみ： 「ほへ(わたし)の名前は、『○○○○』です。」

ほけ： 「ほへ(わたし)の名前は、『○○○○』です。」

ほけ・つっみ： 「ふたりあわせて『○○○○』です。」
「お、へ、お、な、が、ら、い、ま、す。」

つっみ： 「よ、う、ご、さ、い、な、ま、い、な、 『授業』ってなまは？」

ほけ： 「そ、う、な、 『国語』とか。」

つっみ： 「な、る、ほ、へ、(な、の、あ、ご、の、手)

ほけ： 「あ、へ、へ、 『音楽』とか。」

つっみ： 「な、る、ほ、へ、(な、の、あ、ご、の、手)

ほけ： 「あ、へ、へ、 『給食！』」

つっみ： 「そ、れ、は、授業じゃなからってよー」

「お、へ、へ、い、ま、す。」

ほけ・つっみ： 「へ、い、ま、あ、ら、が、い、い、い、ま、す。」

「教育漫才」作品例

【例2】

◆タイトル【ほへのわたしの、おきなせいの】

ほけ・しゅいみ： 「ほへ、えいせい。」

しゅいみ： 「ほへ（わたし）の名前は、『OOOOO』です。」

ほけ： 「ほへ（わたし）の名前は、『OOOOO』です。」

ほけ・しゅいみ： 「ふたりのおなせいの『OOOOO』です。」
「おへいおなせいの『あへ』。」

しゅいみ： 「AJJJKKK、おきなせいの『リーメン』ってなあに。」

ほけ： 「おへいせい『リーメン』よか。」

しゅいみ： 「ななほへい（おへいのおへい）」

ほけ： 「あへいせい『みんリーメン』よか、」

しゅいみ： 「ななほへい（おへいのおへい）」

ほけ： 「あへいせい『みんリーメン』」

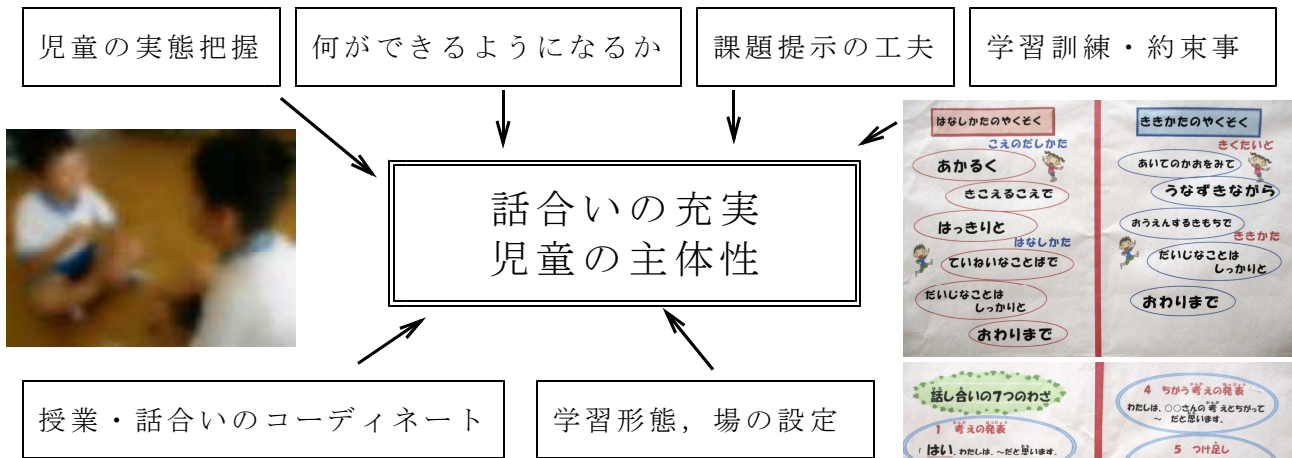
しゅいみ： 「それは、リーメンじゃないだろう。」

「おへいせい。」

ほけ・しゅいみ： 「おへいおなせいの『あへい』です。」

授業における「話し合い」充実のための取組

相馬市立山上小学校 石田 諭



1 授業の実際 第3学年 算数科「かけ算の筆算(1)」

2 テーマに迫るための手だて

- (1) 既習内容と関連づけたり、模擬貨幣でイメージ化を図ったりして、見通しを持って自力解決できるようにする
- (2) 教材提示のしかたを工夫し課題意識をもたせることで問題解決の意欲を持たせる

◎ **参考:学びのスタンダード推進事業、中村二小「教材提示の工夫」より**

- ・資料を少しずつ見せる → 先を予想するわくわく感
- ※既習から未習へ移る → **できる・できる・あれ?**
- ・複数の資料を比較させる → 違いや変化を問う
- ・条件を加えて負荷を与える → 解決への意欲を高める
- ・生活経験から課題を見つける → 生活に活用する力をつける

(3) 課題解決方法の話し合いをコーディネートする【再生, 共感, 発見, 補助, 理由】

◎ **参考:学びのスタンダードより**

- 【再生】「〇〇さんの考えをもう一度言ってみてください。」
- 【共感】「〇〇さんの言いたいことわかりますか。」
- 【発見】「みんなの考えの似ているところは? 違うところは?」
- 【補助】「〇〇さんの考えに付け足すと? 助けてくれる人!」
- 【理由】「どうしてそうなるのか教えてください。」




(4) 適用問題で本時の学習内容の理解度を確認する


- ◎ 見開きノートでの学習ノートづくり

3 本時の目標

- ◎ 2位数×1位数の仕方を既習の乗法九九などを基に、具体物や図、式を用いて考え、説明したり、筆算について考えたりすることができる

4 授業の実際

段階	学習のようす	時間	○教師の働きかけ
つかむ	1 前時の学習の復習と課題把握。 ・かけられる数が10倍になると答えも10倍になることをおさえる。 ・前時の文章問題をもう一度解く。 ・本時の問題を提示し前時の問題との“違い”を見つける。	5 一斉	 <p>○ 学習コーナーにある前時のまとめを利用したり，ノートを確認させたりする。</p> <p>○ 課題提示を工夫し，前時の文章問題と本時の問題の中から違いを見つけさせ，児童の言葉でめあてを立て，課題解決へ意欲を高める。</p>
<p>T: 前の時間の文章問題と今日の問題の違いはどこでしょう？</p> <p>C: ほとんどいっしょだ。あっ，あめの値段が23円になってる。</p> <p>C: 20円と23円のところが違うよ。3円上がってる。</p> <p>T: 23円は，何の値段かな？</p> <p>C: あめ1この値段！</p> <p>T: 言葉の式は同じだから，数字で表すとどうなりますか？</p> <p>C: $23 \times 3 =$。</p> <p>T: 答えは？</p> <p>C: ……，63？</p> <p>T: すぐにはでないね。では，今日のめあてを考えよう。</p>			
<p>めあて 23×3 の計算のしかたを考えよう。</p>			
見通す	2 問題解決の見通しを持つ。 ・ 23×3 の積の見当をつける。 (20×3 , 30×3 の間) ・ 23 のままではできないので，さくらんぼで20と3にわけて計算する。 ・ 模擬貨幣で表してみる。	8 一斉	<p>○ 既習事項と関連づけながら考えていけるように促す。23 を位ごとに分けるという視点を見いださせる。</p> <p>○ 計算の際には，検討をつける習慣化を図る。検討を立てたり，模擬貨幣でイメージを高めたりして，解決への見通しをもたせる。</p>
<p>T: 初めて計算するね。どうやって計算すればいいかな？</p> <p>C: さくらんぼが使えるよ。20と3のさくらんぼにするといいよ。</p> <p>C: お金で表すとわかりやすいよ。</p> <p>T: じゃあ，表してみて。</p> <p>T: あれっ？前時と同じところがあるよ。</p> <p>C: 10円玉のところは前に学習したところと同じだ。じゃあ，1円玉のところは……。</p>			

解 く	<p>3 問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決。 ・ホワイトボードに考えを書く。 	10 個人	○ 机間指導で、自力解決をサポートできるような助言をする。
話 し 合 う	 <p>4 23×3 の計算の仕方について し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通点について ・「は・か・せ」について 	15 一斉	<p>○ 全員に発表をさせる。適宜、共通点について確認し、位に分けて計算することを意識づける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・2位数×1位数の仕方を既習の乗法九九などを基に、具体物や図、式を用いて考え、説明している。</p> </div> <p>○ 速く、簡単に、正確にという観点から筆算に結びつけ、筆算方法を児童の言葉を使って作り上げていけるようにする。</p>
<p>T: 発表ボードを見て、同じ考えの人同士をまとめよう！</p> <p>C: ○○さんと○○君の考え方は、にていると思います。</p> <p>T: 3つグループに分けられそうだね。このグループから発表して。</p> <p>C: 私の考えを発表します。さくらんぼで十の位と一の位に分けて計算しました。みなさん、どうですか？ C全: いいです。</p> <p>T: ○○さんと○○君の考えは、どこが同じでしたか？</p> <p>C: さくらんぼで十の位と一の位で計算しているところが同じです。</p> <p>T: 次のグループ、お願いします。</p> <p>C: 私は、お金を使って考えました。23円の20円は、前の時間と同じです。1円のところを分ければいいので、3円を分けて一人分は29円になります。</p> <p>T: このグループの同じところはどこでしたか？</p> <p>C: 私は、文章を加えて説明します。23円は、計算したことがないので、20と3の十の位と一の位に分けて位ごとに計算するとできます。</p> <p>T: 全員の考え方で同じところはどこだろう？</p> <p>C: 位ごとに計算するというところです。○○さんの説明は、ほかのグループの考えを言葉で説明できてます。</p> <p>T: なるほど。では、23×3 は、位ごとに計算すればいいんだね。じゃあ、これからこういう計算は、お金をかいたり、さくらんぼで計算したりして答えを出していけばいいね。</p> <p>C: えーっ。先生、それは大変です。</p> <p>T: 「は・か・せ」になるには、どうすればいいかな？（大きい数のたし算引き算を想起させる）</p> <p>C: 筆算を使えばいいんだ。でも、どうやるの？</p> <p>T: かけ算のひっ算は初めて学習するね。じゃあみんなと一緒に考えていこう！</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 23×3 の筆算について 		
ま と め る	<p>5 まとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>23×3 は、筆算で計算することができる。</p> </div>	7 一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>筆算の仕方について考えることができる。 (発言、学習ノート)</p> </div>

T: 筆算の書き方はこれでいいかな? 十の位にかける数3を書く。
 C: だめです。位はそろえてかかないとだめだと思います。
 T: その通りですね。じゃあ、どこからかけていくの?
 C: 位ごとに計算するんだから、1の位からかなあ。
 T: では、計算してみます。3×3は9、2×3は6、答えは69。
 C: えっ!?もう終わり。うわあ、簡単だ!
 T: じゃあ、次の問題で練習してみましょう。

- ・適用問題をする
- ・次時の予告を聞く



- 次時につなげるため、適用問題は、書き方や手順を全体で確認しながら問題を解く。



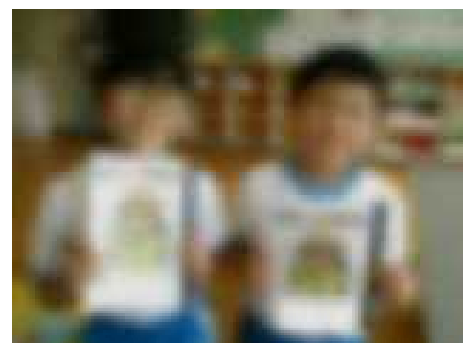
6 まとめ ○成果と●課題

- 教材提示の仕方を工夫することで、関心を高めながら課題をとらえ、問題解決への意欲を高めることができた。それにより、本時のめあてが児童から出されるなど、主体的な学習へとつながっていった。
- 課題解決の段階では、児童の言葉を取り上げ、十分な見通しを持たせてから取り組ませた。活動が滞ることなく、自力解決に向けて精力的に作業に取り組む児童の姿が見られた。
- 発言、発表は、常に全員発表を心がけて取り組ませてきていることにより、児童に発言力がついてきていることがわかる。再生、共感、補助、理由などのコーディネートする際の言葉がけを意識して使っていくことにより、対話的な学習の展開が期待できる。
- 児童に深く思考させるには、ヒントが多すぎた感がある。負荷を与えたり、じっくり考えさせたりする時間を確保することも必要である。ただし、時間的な配分や単元のどこでその時間を作っていくか、そういうトータルコーディネートも必要。
- 児童の言葉をつないで話をコーディネートしようという意識は高く持てたが、児童同士の会話が少なかった。今後、児童同士の、児童主体の「対話」を意識していきたい。



その他

- ◎ 中学年児童には、「美文朗読」がないので、参考にして「山上っ子読本」を作成した。教科書の詩や俳句、早口言葉などを取り入れ、一年間ですべて暗唱できる程度の量にした。国語科で「声に出して読む」時間を確保し毎時間取り組んできたことも効果的であった。



授業における「話し合い」充実のための取組

相馬市立八幡小学校 寺島 美恵子

低学年における話し合い活動 ～生徒指導の3機能を生かして～

1 教科・単元名 算数科「ひき算のひっ算」(第2学年)

2 「話し合い」充実のための工夫(アイディア)

(共感的人間関係の構築)

- まちがいや失敗を認め合える集団づくり
【教室は間違えるところだ】
- 安心してつぶやける雰囲気づくり
【分からないことを分からないと
言える子どもの育成】

(相手意識をもった聴き方・話し方の指導)

- 相手の話に共感しながら聴く
- うなずくなど、反応しながら聴く
- 体を向けて、目を見て聴く、話す
- 全員に伝えることの大切さを意識して話す
- 分かりやすく話す【ゆっくり、強弱など】



(教師の意識改革)

- シャベる教師から、黙って聴く教師へ
【子どもたちの考えをつなぐ、静かでゆったりとしたまたはテンポのある教師のコーディネート】
- 子どもの頑張りやできたことをほめて生かす教師
【具体的な姿を瞬時に見つけ、判断し、ほめて全員で納得して、共有につなげていく】
- 笑顔や声、話術を工夫しながら、魅力ある教師へ
【表情豊かに、声の抑揚や強弱をつけて、繰り返しや問い返し、ゆさぶり、間、ボケなどを駆使】



(自己存在感の高揚と広がり)

- 自分の考えを話そうという意欲
- 聴いてもらえる、認めてもらえる安心感

(自己決定できる学習集団へ)

友だちの考えを聴こう 自分の考えを言おう
→他教科や様々な場面で話し合いが充実

3 本時の学習

(1) 本時のねらい

2位数-2位数(繰り下がりあり)の減法計算で、自分の考えを表現し、筆算の仕方について説明することができる。

(2) 本時の手だて

- ① ホワイトボード上の操作では、ホワイトボードマーカーで囲んだり矢印を引いたりすることで分かりやすく表記し「可視化・共有化」を図る。
- ② ペアや全体で考えを交流する時間を設けることで、共通点や相違点に気付かせ、思考の共有や吟味をしながら、子ども同士で学び合う場を確保する。
- ③ 友だちの考えを聞き、発表者以外の子どもが再生活動することで思考の過程を共有できるようにする。

4 授業の実際

◇ 「見通す」の場面

- T : 45 - 18 の計算はどうする？
C : 1 の位が 5 - 8 で引けないよ。
T : どうしたらいい？
C : 45 - 8 の時みたいに、10 の位から繰り下げるといいんじゃない？
C : ああ、なるほど！
T : できそう？
C : うん！
T : じゃあ、何でやってみる？
C : ブロック。
C : 私は筆算。
T : では、線や矢印を入れて分かりやすく書いてね。

5から8は引けないから・・・



ぼくは、ブロックでやってみよう。

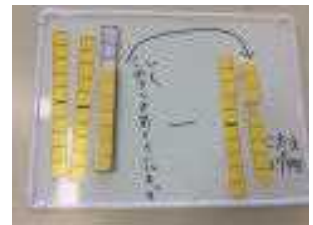


◇ 「話し合い」の場面

全体で考えを検討する。

- T : では、みんなの考えを見てみましょう。
(黒板の前に集める。)
T : C1さんたちの考えはどう？
C : 多分、足し算の時のように式をブロックでおいたんだよ。
C : 引き算だから、ブロックを取るんだよね。
C : うん。だって、引くんだから。答えはここだ。
T : じゃあ、C2さんたちの考えを説明できる人いますか？
C : 5から8は引けないから、十の位から1借りて15にします。1は本当は10だから15 - 8は7です。
C : うん、同じです。これなら引ける。
T : では、もう一度説明してくれる人はいますか？
C : ぼくも同じです。ぼくは式と筆算で書きました。

いろいろな考えのホワイトボードを提示し、説明をする。



◇ 感想・考察

- 間違いに気付いたときに、学習意欲が低下しないような雰囲気作りに努めた。また、発表までは行かないが、ハンドサインを出すことで自分の考えを意思表示させた。
- ホワイトボードを使うことで、気軽に書いたり消したりできる。だれが見ても分かりやすく書くために、書きすぎないことも工夫の一つであることを指導した。
- 紙ブロックを使用していたので、一つ分は、ばらにできるブロックを初めに準備することを伝えるべきであった。



5 まとめ

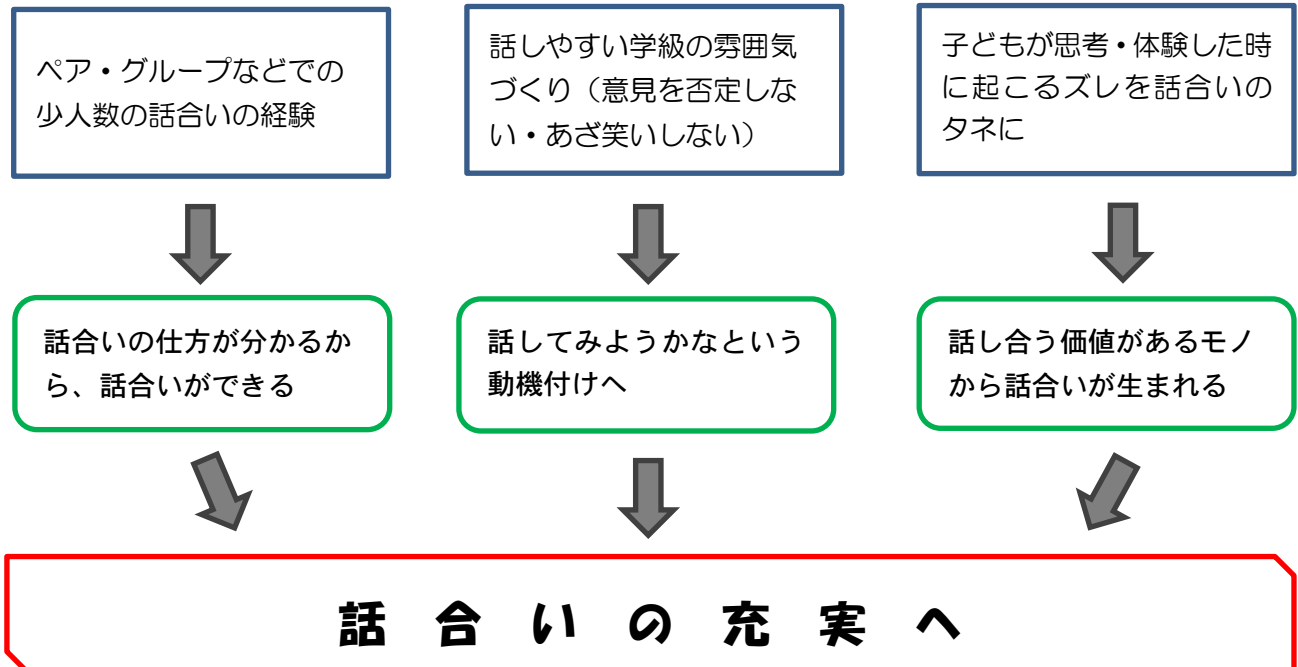
低学年は教師のコーディネートで授業が進むことが多い。考えの相違点を吟味したり、その理由を問うたり再確認を促したりすることが大切である。そのためにも、子どもたちが安心して話せる学級づくりが大切であると考えます。子どもたちは間違えることで成長することを念頭に置き、生徒指導の3機能を生かして、学び合う親和的な学級づくりを心がけたい。

図画工作科における話し合い

相馬市立中村第一小学校 屋仲 幸治

1 教科・題材名 第6学年 図画工作科「墨と遊んでいたら」

2 話し合い充実のための工夫



3 本時の学習

(1) 本時のねらい

濃淡、にじみ、ぼかしなどの様々な表現方法を試す活動を通して、筆と墨の特徴を楽しむことができる。

(2) 本時の手だて

① 少人数グループによる場の設定

- 馴染みのある生活班をもとにグループを構成することで、これまでの話し合いの体験を生かして話し合うことができるようにした。

② 話しやすい雰囲気づくり

- 本題材はもともと「墨で表す」という題材名だったが、子どもたちのイメージが広がり、自由な発想や雰囲気生まれるよう、敢えて題材名を「墨と遊んでいたら」と変更した。授業の導入時に子どもたちに「『墨と遊ぶ』ってどういうこと。」と発問すると、「わちゃわちゃ、ふざける、楽しい」などという言葉の他に、ケガをするというマイナスイメージの言葉も出された。その返答に「ケガをして気付くこともあるよね。」と言ったことで、子どもの発言を生かして、失敗をしてもよいという雰囲気を醸成することができた。

③ 話し合いが生まれる課題設定

- 本題材には、「濃淡・にじみ・ぼかし」などの基礎技能が必要であるが、導入時に細かく指導はせずに見本だけ示したことで、どのようにすればよいかグループ内でコミュニケーションを取りながら活動を行うことができた。また、「友達のよいところを見てこよう」と鑑賞の時間を設定したことで、自然と「これ、どうやってやったの？」などの会話が生まれた。

4 授業の実際

<導入の場面から>

T:「遊ぶって」どんなイメージの言葉？

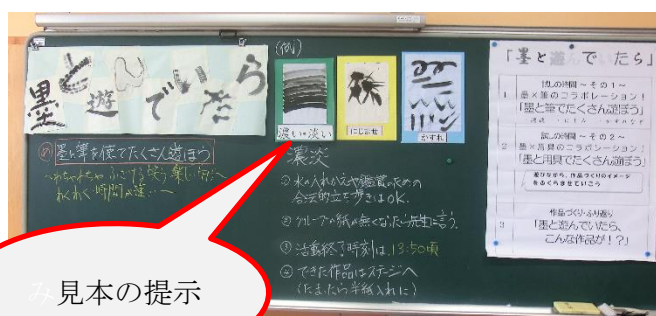
C:わちゃわちゃ、ふざける、笑う、ケガする、楽しい！

T:じゃあ、そんなイメージで自由に墨と遊んでみよう。もしかすると、ケガをして気づくこともあるから、どんどん描いてみよう！



<基本的な技法の見本提示>

「濃淡」、「にじみ」「ぼかし」などの見本を提示した。敢えて詳細な説明はせずに、子ども達がやりながら感覚をつかみ、必要に応じて友達と話し合いながら自分の表したいことを表現できるようにした。また、「これ以外にも色々なやり方を遊びながら見つけてみて」と声を掛けた。



グループの中央に作品ステージを設けたことで、「それ、どうやったの?」、「そのやり方がいいねえ!わたしもやってみよう。」などの話合いが各グループで見られた。



<鑑賞タイムの実施>

授業の週末に鑑賞タイムを設け、友達の作品を自由に見て回らせた。子ども達は友達の作品に触れたことで、自分との違いやよいところに気付いたりして、自然と話をする姿が見られた。

<まとめ>

図画工作科には表現と鑑賞の2つの活動があるが、それらは切り離されるものではなく、お互いの領域を往き来しながら行われるものである。児童は友達の作品に触れた時に、自分の表現したものや感覚と友達のそれとがズれていることに気付く。その際に、「どのような技法で行ったのか」、「何をイメージして作ったのか」など、自分のよりよい作品を作るために必要な会話が自然と生まれていた。教師は、児童が他の作品に触れるための環境をつくり、そのタイミングを見極めることが重要だと感じた。

授業における「話し合い」充実のための取組

相馬市立中村第二小学校 稲葉 綾

- 1 教科・単元名 特別な教科 道徳「車椅子での経験から」(第6学年)
※内容項目：親切・思いやり (B主として人との関わりに関すること)

- 2 「話し合い」の充実のための工夫 (アイデア) : 授業のねらいに応じた「問題解決的な学習」の導入

自己との対話 (日常生活や教材から道徳的な問題を見つけ、これまでの自己を知る)



「問い」の設定 (道徳的価値の本当の意味や意義に対する問題)



「問い」の探求・まとめ (他者の多様な感じ方や考え方に触れ、交流し合うことで、
他者との対話 一層自己を見つめ、新たな考えや自己の内面に気付く)



自己を見つめる・自己の生き方について考えを深める

「こんなよさがあるんだな」(自己肯定感の向上)「あんな自分になりたいな」(実践意欲の向上)

3 本時の学習

(1) 本時のねらい

相手の立場に立って、誰に対しても親切にしようとする実践意欲を高める。

(本時の「問い」: 親切にするってどういうことだろう。)

Q: もしも、自分が「ぼく」だったら「親切にできる・できない？」
→ 「もしも～だったら？」の問いかけで自分事として捉えさせる。

(2) 本時の手だて (成果・課題)

①ネームプレートの活用

導入で、道徳的な問題や道徳的価値への自己の関わりに気付かせるため活用した。児童自身が、自分の「今の実態」を客観的に知ることができること、また、児童の心の揺れや、学級全体の傾向が理解でき、教師の意図的指名にも活用できる点、で大変効果的であった。児童はネームプレートを確認めながら「自分も友達と同じ」という安心感をもって、内面にある理由を意欲的に話すことができた。



②グループ活動の導入

ワークシートに自分の考えを書いた後、友達の考えに触れ、道徳的価値について多面的・多角的に捉えることをねらいとして行った。グループで出た考えを可視化できるよう、ホワイトボードを活用した。グループでの話し合い活動は、児童全員が参加し考えを共有・整理できるところがよい。一見児童主体の活動には見えるが、活動の目的をより明確にもっていることが必要であった。

③教師のコーディネート

全体共有と練り上げの段階では、教師主導の展開 (一問一答) になってしまった。「問い返し」「共感」で、理由や根拠を共有させることはできたが、児童が思わず話したくなる「切り返し」「揺さぶり」の発問の工夫が更にあれば、より活発な話し合いになったのではないかと考える。

4 授業の実際

◇「グループでの話し合い（考えを聞き合う）」の場面

T：親切にできる人とできない人の差って何なのだろうね。

C：（ワークシートに自分の考えを書く→3～4人の小グループに）

全員：「お願いします。」（メンバー全員の挨拶からスタート）



C4:ぼくは、みんなの考えも分かるんだけど、親切にしたことがあるかないかの差じゃないかと思っています。

※自分の立場（同じ・似ている・違う…）を明確にしてから、自分の考えを伝える。



C1:（班長）相手が知らない人だったら親切にできないと思います。どう思いますか。一人ずつ考えを出してください。どうぞ。

※みんなに投げかける。

C3:そうかな。ぼくは、2人と違って、勇気があるかないかの差じゃないかなって思います。

ホワイトボードには、「キーワード」だけ書く。

C2:分かるな。私も〇〇さんと同じで、自分が知っている人にはできると思います。

※班長は、グループでの話し合いの進行と記録を担当する。班長は、週ごとに輪番制で行い、1週間を通して、他教科や生活の場面で「話し合いや活動をリードする」役割を担う。

※「いいね」+1（プラス・ワン）「なるほど」と友達の考えを受け止める→その後に「友達の考えに対する自分の考え」を伝える。

**<ポイント！> グループの話し合いの状況を見取る。
→全体共有の展開を構想する。「誰のどの考えを取りあげていくか」**

◇「全体での話し合い（共有する）」の場面

各班のホワイトボードを黒板にはり、黒板前に集める。

T：各班のボードを見て、共通している考えはあるかな。

C：「自信がない」って他のグループからも出ているけれど、もっと詳しく聞きたいです。

T：「自信がない」という気持ちを、誰か説明できるかな。 <予想>

C1：「助けてあげたい」という気持ちはあるけれど、「本当に相手がやってほしいと思っているか迷ってしまう」ということだと思います。



T：C1さんが話してくれたことに対して、その気持ちが分かる人はいるかな。 <共感>

→C1が指名「C2さん、どうぞ。」→C2：「ぼくも、前に……。」

T：では、「勇気」があれば、こういう場面では、いつでも助けられるんだね。 <揺さぶり>

C3：「勇気」があっても、いつでもできるわけじゃない。だって、……。」

T：お話の中の「ぼく」だって、「今までのぼくだったらおばあさんの手助けをするなんて考えられなかった」って書いてあったよね。

でも、どうして「ぼく」は行動できたんだろう。 <問い返し・理由>

C4：「もしも自分だったら」って考えたんだと思います。

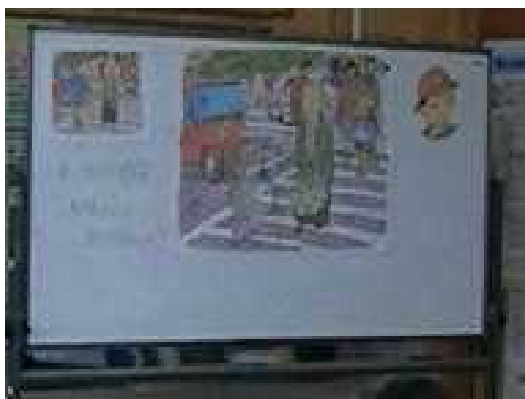
T：C4さんの言ったこと、もう一度話せるかな。 <再生>

C5：C4さんは、「ぼくが、もしも自分がおばあさんだったらと考えた」と言っていました。

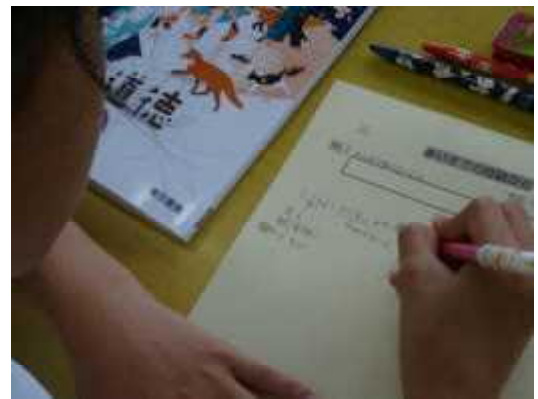
T：では、C4さんが言った「もしも自分だったら」の意味を、グループで話し合ってみましょう。

<新たな「問い」をもたせる> →再度、グループでの話し合い →深い学びへ導く

C6：「もしも自分だったらどうしてほしいか」と、相手の立場を考えて行動することが親切にするってことだと思います。 <「問い」に対するまとめ>



大型の挿絵を用いて「先行オーガナイザー」により話を捉えさせた後に、役割演技で場面の状況を体感させた。



終末では、導入で用いたネームプレートの自分の立場を再度確認し、書く活動で振り返らせた。（心に残った友達の意見・学習前後の考えの変化・これからの自分について等）



5 まとめ

「問い」に対する自分の思いや考えをもたせ、それを引き出し・つなぎ・価値付ける「教師のコーディネート」を意識し授業を行った。その実現のためには、本時のねらいを明確にし、どこをどのように共有させ、揺さぶり、掘り下げていくかを指導者自身がおさえ、授業を構想していく必要があった。また「もしも～なら」「だって」「例えば」などの「話し始めの言葉」を日常的に指導し、児童の「話す力」を継続的に育てていくことが、活発な話し合いを実現することにつながると言える。そして、同時に、他の意見を受け止め、共通点や相違点を考えながら「共感的に聴く姿勢」を育てていきたいと考える。

授業における「話し合い」充実のための取組

相馬市立桜丘小学校 小丸 恭平

- 1 教科・単元名 理科「人のからだのつくりとはたらき」(第6学年)
- 2 「話し合い」充実のための工夫(アイディア)

【授業実践】

教科指導の中で、児童がお互いの考えや意見を交流し、学び合い、認め合える機会の拡充を図ることで、学力の向上を目指す。



【「話す・聞く」活動の土台づくり】

学級経営として、主に学級活動を中心に、親和的な学級の雰囲気づくりを行い、児童相互の望ましい人間関係を構築する。



児童一人ひとりが、自分の考えや意見を表現することで、お互いに理解し合い、認め合うことができる。



各教科や学級活動など、児童が「自分の意見を言おう」「友達の考えを聞こう」「自分の考えが相手と共有できて嬉しい」などの気持ちが向上 → 「話し合い」の充実

3 本時の学習

(1) 本時のねらい

児童の思考過程を可視化し、共有化を図ることで、児童相互の思いを主体的・対話的で深い学びにつなげる。

(2) 本時の手だて

【教科指導(理科)での取組】

- ① 単元の導入段階における、学習内容に関わる児童の意見からのイメージマップ作成

ア) 児童一人ひとりの思考を可視化することで、既習内容や疑問、学習課題等を確認しやすくし、学級全体で今後の学習の方向性を見いだす。(写真1, 2)

イ) 児童1人つき3枚の付箋紙に、「動物」と聞いてイメージすることを書くようにする。(写真2)

ウ) 自分や友達の思いの相違点に触れ、今、分かっていること、分かっていること、今後の学習で何を学んでいくか、について明確になってくる。(写真2)

- ② <教材との出会い>の板書の構造化(授業スタンダードによる)(写真3)

ア) 子どもの「問い」や「思い」の確認

◎既習内容・・・「筋肉」、「骨」、「関節」、「体」等

◎これから、学びたい内容・・・「内臓」、「食べ物」「他の動物」等



写真1



写真2



写真3

イ) 学習課題の把握

◎本単元での学習内容への焦点化

◎児童自らの疑問が学習課題となることで、学習意欲の喚起や主体的な学習活動につながる。

【学級活動等での取組】

- ① 児童が取り組んだ様々な活動(学校行事等)について、児童がその活動の目標や振り返りを書いて学級に掲示することで、児童がどんな思いで取り組んだかを、お互いに理解し合えるようにする。
- ② ①で述べた学級掲示の内容を、学級便りに掲載し、保護者にも児童の思いが伝わるようにする。

4 授業の実際

【教科指導(理科)での取組】

(1) イメージマップの作成、板書の構造化(授業スタンダードによる)から学習内容の理解へ

- ① イメージマップから、児童は食べ物が排泄物になる過程で「消化」が行われているのではないか、という疑問をもつに至る。
- ② 「食べ物は、口の中でどのように変化するのかな」の学習課題を設定し、口の中で別の物に変化する予想のもと、実験を行う。
(写真4)「結果の見通し」、「方法の見通し」
- ③ 実験結果を表でまとめ、グループ・学級全体で共有し、「食べ物が、だ液によって別のものに変化したこと」を理解する。
「(結果に基づいた)考えの共有・吟味」、「思考過程の可視化」
「友達との交流」(写真5:吐く息の石灰水の変化の観察活動)
- ④ 終末段階で「何を学習してきたか」をまとめる。(写真4)
「本時のねらいとまとめの整合性」



【学級活動等での取組】

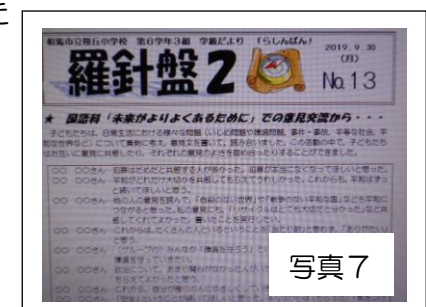
(1) 学級活動等における児童の相互理解へ

- ① 児童自らが「どんな思いをもって取り組もうとしたか」「取り組んだ結果、どんな気持ちだったか」を表現することで、思いを共有したり、共感したりすることができる。(写真6)
- ② 学級便りを通して、①の取組を保護者にも伝えている。児童がお互いに関わり合いながら、成長していることを保護者にご理解いただけるように学級担任として配慮している。(写真7)



5 まとめ

- (1) 各教科で、児童がお互いの考えや意見を交流し、認め合える機会の拡充を図ることを、工夫改善を加えながら継続して取り組む。
- (2) 学級経営として、学級活動を中心に親和的な学級の雰囲気づくりを行い、児童相互の望ましい人間関係を構築していく。この取組を保護者にも進んで情報発信し、理解協力を得る努力を続ける。



授業における「話し合い」充実のための取組

相馬市立磯部中学校 武澤 裕子
授業者 岩崎 里枝

1 教科・単元名 数学・「1章 多項式」(第3学年)

2 「話し合い」充実のための工夫

〈「話し合い」における課題〉

生徒数10名の少人数級であり、一人ひとりを丁寧に指導できるよさがある反面、多様な意見が出にくく、「話し合い」を通して「学び合い」をするには厳しい状況がある。

また、学力の差が大きく、授業でも自信をもって積極的に発言できる生徒とそうでない生徒がはっきりしている。



〈本時における「話し合い」充実のための工夫〉

ジグソー学習法を取り入れた協調学習において、それぞれの段階に応じた活動に取り組む。

- ① STEP1:一人で考える時間
自分の知識で課題に取り組む。
- ② STEP2:ホームグループでの課題確認
他のメンバーと自分たちが取り組む課題を確認する。
- ③ STEP3:エキスパート活動
グループを分散して新しいグループを作り、同じ課題に対して解決へ向けて話し合いを行う。
- ④ STEP4:ジグソー活動
ホームグループに戻り、他のグループから得た考えについて発表し、確認する。
- ⑤ STEP5:共有の時間
グループ代表がどのように解決したかを発表し、全体で共有する。

〈工夫から期待される成果〉

一人ひとりに役割を与えることにより、話し合いの必要性を認識させることができる。



生徒各々が「責任をもって自分の役割を果たそう」と課題に取り組む意欲を喚起できる。



自発的に思考・判断・表現する機会をもたせることができる。

3 本時の学習

(1) 本時のねらい

展開や因数分解を利用して、数の計算や式の値を工夫して求めることができる。

(2) 本時の手立て

① 既習事項を活用する場面の設定

この単元は、第2学年「式の計算」を応用した学習内容となっている。多項式どうしの乗法を学習することで、文字式を利用できる場面がひろがる。これにより、文字を用いて数量を一般的に表すことや、目的に応じて式を変形し、見通しをもって式を能率的に扱う力を一層伸ばすことができる。本時はこの単元の中でも応用的な内容となるが、これまでに習った式の展開や因数分解を用い、工夫して計算することで、より簡単に、正確に、速く解けることに気付けるような授業展開を目指す。

② 自他の理解を深める学習形態の工夫

ジグソー法を取り入れることで、「一人で考える時間」「グループで吟味する時間」の両方を持つことができ、話し合いや説明・発表を通して、互いの答えと根拠を検討し、違いを知ることができる。それは、自分の知識を意識化する時間をもつとともに、他のメンバーの考えや説明を聞いて、他者の発想を理解することはもちろん、自分の理解状況を内省し、課題への理解を深める過程を経験することにつながると考える。

③ 相互交流を通じた話し合い活動

ホームグループに戻った際に役割の責任を果たすためには、ホームグループから離れて一人一役を担って活動する過程で、他者の意見や説明に耳を傾け、自分の言葉で説明したり、質疑を繰り返したりしながら、発表の準備を進めることとなる。学力の差があっても、各段階での他との関わり合いを通じた話し合いの中で、より分かるうとしたり、自身の考えを修正したりと、一人ひとりが学びを深めることができる活動であり、話し合いが個々の課題解決に有効に働くものと考えられる。

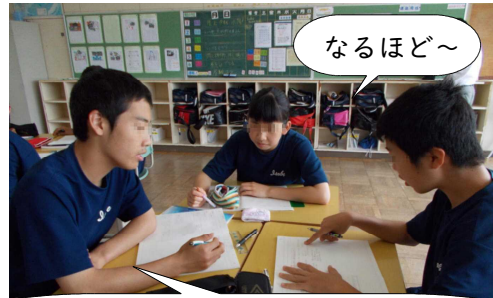
4 授業の実際

◇STEP1:一人で考える時間
課題に取り組み、自分の知識を意識化する。



よし、まずは自分の力で解いてみよう。

◇STEP3:エキスパート活動
同じ課題に取り組み、考えを伝え合う。
説明する、聞く、質問する、まとめる。



なるほど～

〇〇君はどうやってその答えを出したの？

◇STEP4:ジグソー活動
ホームグループに戻り、他のグループの課題に対する考えを理解する。説明する、聞く、質問する、まとめる。



Cグループでは公式4を使って解いていて...

◇STEP5:共有する時間
グループ代表として、解決した過程や気づきを発表する。



その場合、公式2を活用すると...

〈話し合いのルール〉
 ○グループの中で順番を決めて、自分の考えを説明する。
 ○疑問点はそのままにせず、何度でも質問し、解決する。(→ホームグループに戻ったときに、伝える責任がある)
 →必ず発言する機会が与えられる活動である。

学習課題 筆算や電卓を使わずに計算する方法はないだろうか？

① $25^2 - 15^2$ $=625 - 225$ $=400$	② 101^2 $=10201$	③ 47×53 $=2491$
① $25^2 - 15^2$ $= (25+15)(25-15)$ $=400$ 公式4	② 101^2 $= 100^2 + 2 \times 100 \times 1 + 1^2$ $= 1000 + 200 + 1$ $= 10201$ 公式2	③ 47×53 $= (50-3)(50+3)$ $= 50^2 - 3^2$ $= 2500 - 9$ $= 2491$ 公式4

〈感想・まとめ〉
 当日の出席者9名を3人ずつのグループにし、活動を進めた。本時以前にもジグソー学習法による授業を行っており、生徒たちは一人一役の意味を理解し、より活発に話し合いを進めることができた。意見の交換が密になったあまり、ジグソー活動に予定していた時間を確保することができなかった。各段階において、話し合いから学びを深めるしかけがあるため、どの段階にも話し合いの時間を十分に確保する必要がある。また、その話し合いの中で、生徒自身が新たな疑問を持ち、次時で新たな学びへつながるような授業を展開することが目標であり、そのため、「教材との出合わせ方」をより工夫し、生徒自身で「気づき」をもてるよう、コーディネート力を高めていきたい。

仲間と共に「豊かな対話」から考えを広める取組 ～対話の糸口～

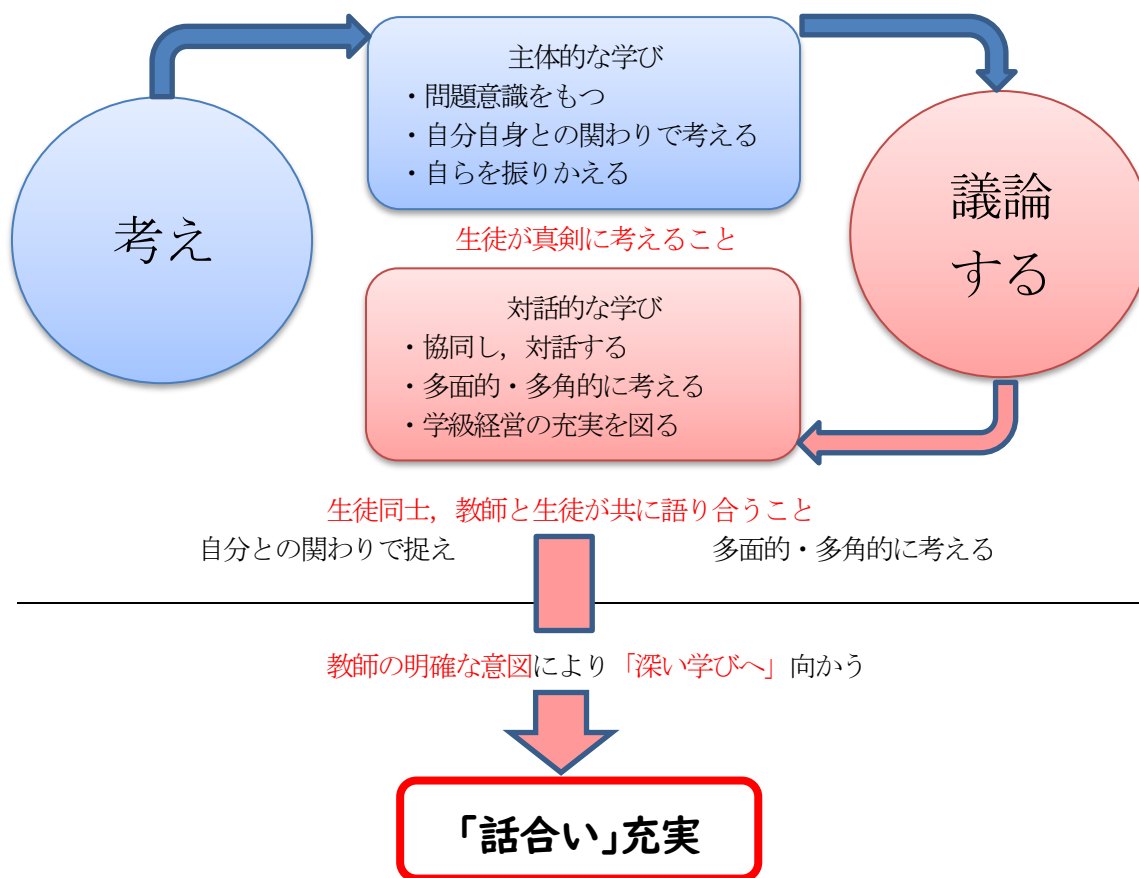
相馬市立中村第一中学校 山内 政俊

授業テーマ	問いや願いなどを引き出し、学級全体での話し合いを通して思いや考えを広げる学習活動
-------	--

- 1 主題名 例えば君なら 中心内容項目：C－（10） 遵法精神，公德心
関連内容項目：C－（15） よりよい学校生活，集団生活の充実

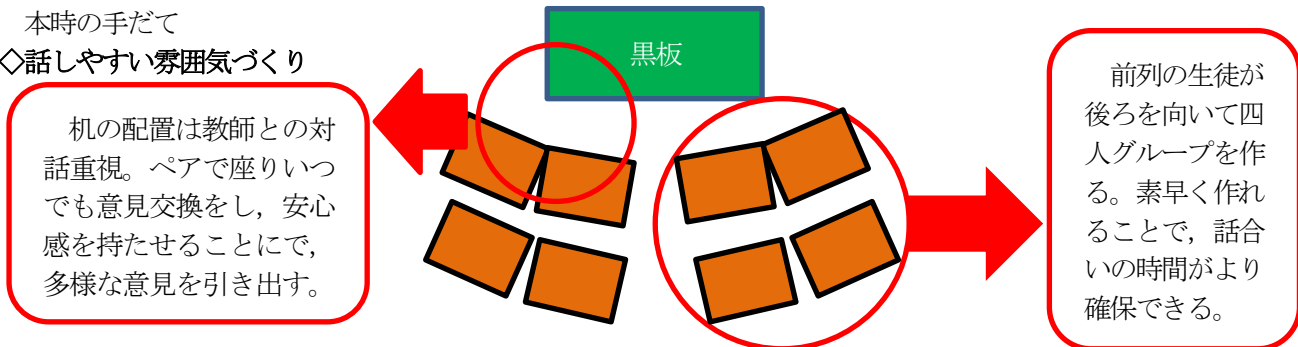
教科名 許さない心 （東京書籍 新しい道徳2）

- 2 「話し合い」充実のための工夫（アイデア）



- 3 本時のねらい
対話的な話し合いを通して，規律ある社会を築くために守ることの難しさや人間の弱さについて深く考えることができる。

- 4 本時の手だて
◇話しやすい雰囲気づくり



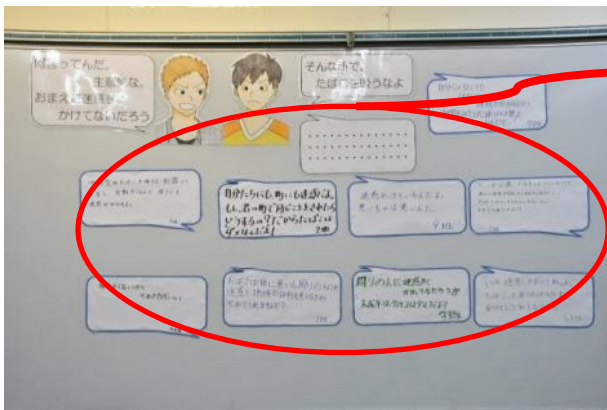
5 授業の実際
◇「見通す」の場面



- 先行オーガナイザーの導入
- 場面絵の使用
- グループの話合いから出た考えと自分自身の考えとを分けて提示する。

先行オーガナイザーを導入し、教材の内容をある程度、理解させることで、場面絵のみで教材の理解把握を促進した。また、場面絵を使用することで、場面がイメージしやすく発問に対して自分の考えをもったり、グループの話合いでテーマに沿って話し合ったりする様子が見られた。考えの出し方を比較することで、考えを整理することができた。

◇「話し合い」の場面

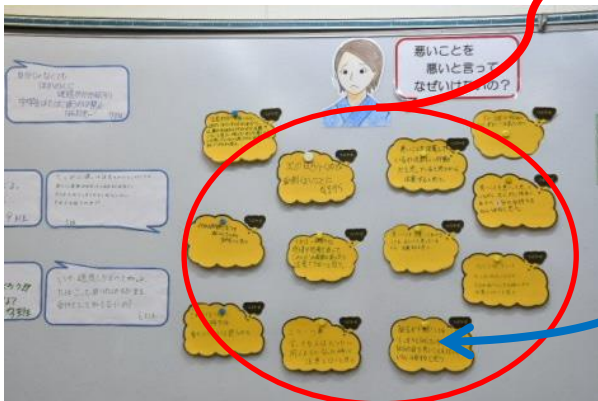


生徒のやりとり
S1「そんな所でたばこを吸うなよ。」
S2「何言ってんだ。生意気な。お前に迷惑かけてないだろう。」
S1「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ここから S1 の「・・・・・・・・」部分をグループで考え、議論する。
手順① この場面の続きを想定して、役割を決めてそれぞれのグループで議論し、ロールプレイングを通して展開を考えた。
手順② 学級全体でロールプレイングを見る。ロールプレイングを見て、多様な考えを比較、検討し自分なりの解決に迫る。
手順③ 他のロールプレイングを検証し、新たな気づきを評価した。

- 考えを共有したり比較・検討したりする場を設定することにより、思いや考えを広げる。
- ファシリテーションを導入することにより、論点を明確にし、議論を促進させる。
- 思いを伝え合う時間や関わり合う場を確保し、生徒同士のロールプレイングを見て考えを深める。
- お互いの考えを発表させることにより、他者からの情報による新たな気づきや発想を引き出したい。

◇「中心発問」の場面



◎ 「悪いことを悪いと言ってなぜいけないのですか。」という私の気持ちは、また同じ場面に遭遇したとき、注意すると思いますか、注意しないと思いますか。それはどうしてそう思いますか。
手だて① じっくりと考えられる雰囲気を作り、十分な時間を確保して個人で考える。
手だて② ロールプレイングの検証を踏まえて考えさせる。
手だて③ 作者への自我関与、多面的・多角的に考えを深めるきっかけにした。
手だて④ ワークシートは、注意する、注意しないという選択形式にして、考えを引き出すきっかけになるようにした。どちらかを選択させ、そう思う理由を述べさせる段階的な形式にした。
手だて⑤ 生徒一人ひとりの考えをつぶやきシートに書かせる。机間支援しながら生徒の考えを整理する。生徒の注意する、注意しないの発表の順番、提示の仕方を意図的に焦らすことで、生徒の考えを葛藤させた。

6 グループでの話合い

生徒のやりとり

S1「そんな所でたばこを吸うなよ。」

S2「何言ってるんだ。生意気な。お前に迷惑かけてないだろう。」

S1「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ここから S1 の「・・・・・・・・」部分をグループで考え、議論する。

◇グループの話合いから出た考え

自分たちにも、町にも迷惑だよ。
もし、君の町で同じことをしたら
どうするの？だからたばこは
ダメだよ！ 2班

自分じゃなくても
ほかの人に
迷惑がかかるだろう。
中学生はたばこ吸うのは禁止
なんだぞー！ 7班

体によくないから
やめた方がいい
4班

たばこは体に悪いし、周りの人にも
迷惑で地域の評判も悪くなるから
やめてくれませんか？ 1班

周りの人に迷惑が
かかるとどう？
未成年は、タバコはダメだよ？ 3班

たしかに僕には迷惑をかけていないけど
周りに迷惑が掛かるといふかもしない。
タイホさ明てしまふからしつないのに
それでも吸うのか?? 5班

いや、迷惑しかかけてねえよ。
たばこ、この周りの人の迷惑を
受けてる、て知らないの？ 6班

中学生がたばこも吸うと犯罪に
なるし、愛動きつえんで、周りにも
迷惑がかかるよ。 8班

迷惑かけているんだよ。
悪いものは悪いんだ 9班

グループの話合いから出た考えを比較することにより、他者からの情報による新たな気づきや発想を期待することができる。

7 全体での話合い

◎中心発問

「悪いことを悪いと言ってなぜいけないのですか。」という私の気持ちは、また同じ場面に遭遇したとき、注意すると思いますか、注意しないと思いますか。それはどうしてそう思いますか。

◇ つぶやきシートを使用し、それぞれの生徒に自分自身の考えを黒板に提示することにより、次のようなことを期待した。ふくしまの「授業スタンダード」から

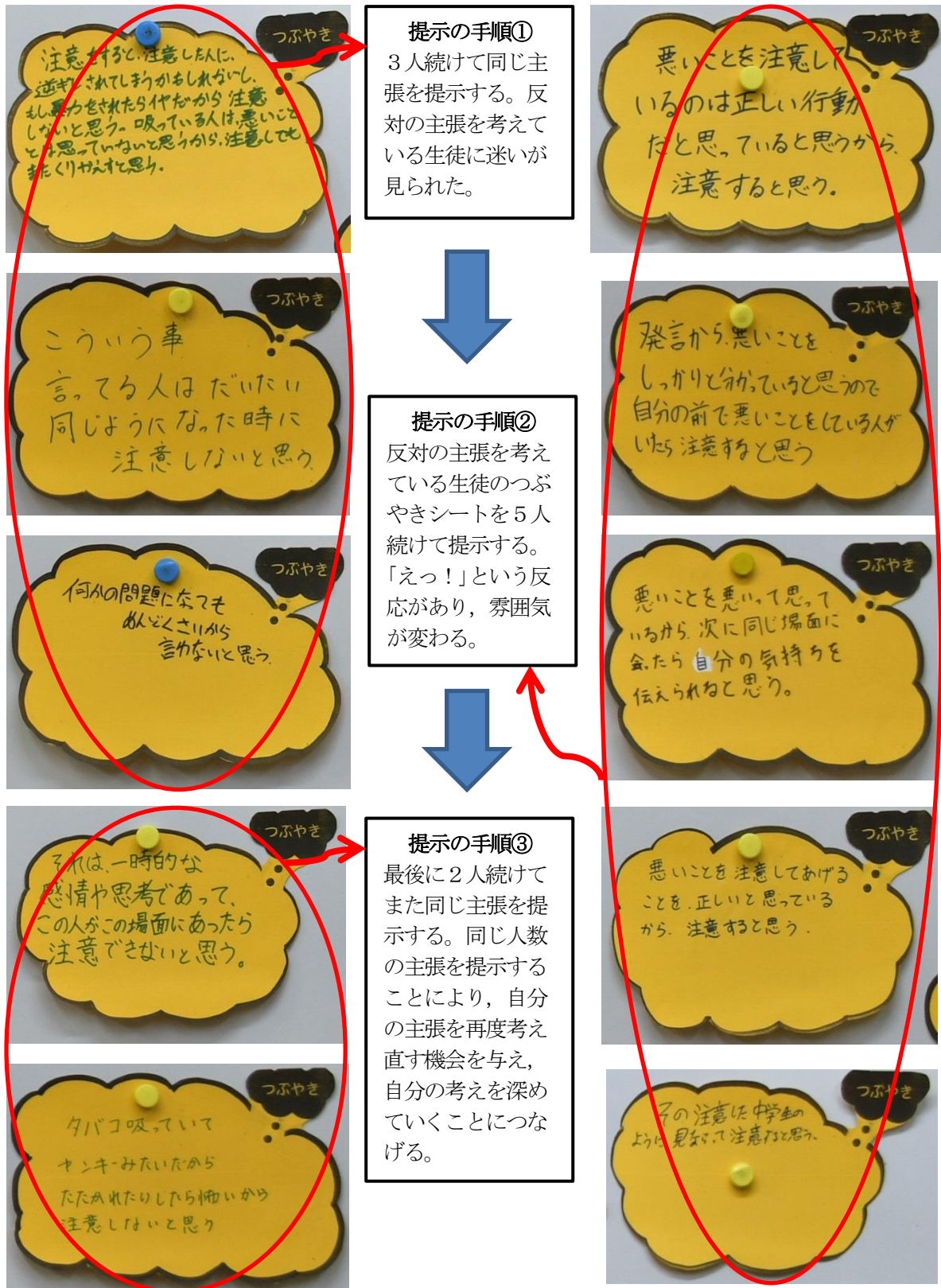
- ・ 友達の考えを理解しようと、興味をもって聞く。
- ・ 自分の考えを説明したり、主張したりする。
- ・ 友達の考えに質問したり、反論したりする。

生徒の注意する、注意しないという主張の発表の順番、提示の仕方を意図的に焦らすことで、生徒の考えを葛藤させた。葛藤させることにより、多面的・多角的に考える議論を展開させた。

授業では議論を仰ぐためにつぶやきシートの提示の仕方を意図的にした。提示の仕方は、注意する、注意し

ないという主張を交互に提示するのではなく、最初に3人の生徒へ注意すると思う主張のつぶやきシートを提示する。次に5人続けて注意しないと思う主張のつぶやきシートを提示する。生徒の反応に迷いが生じる。最後に2人続けて注意すると思う主張のつぶやきシートを提示する。最終的には、5人ずつの意見を提示することで葛藤が生まれた。

◇それぞれの生徒の主張を比較し、提示の手順を意図的に焦らすことで自分の考えを深めることにつなげた。



★「話し合い」の場面

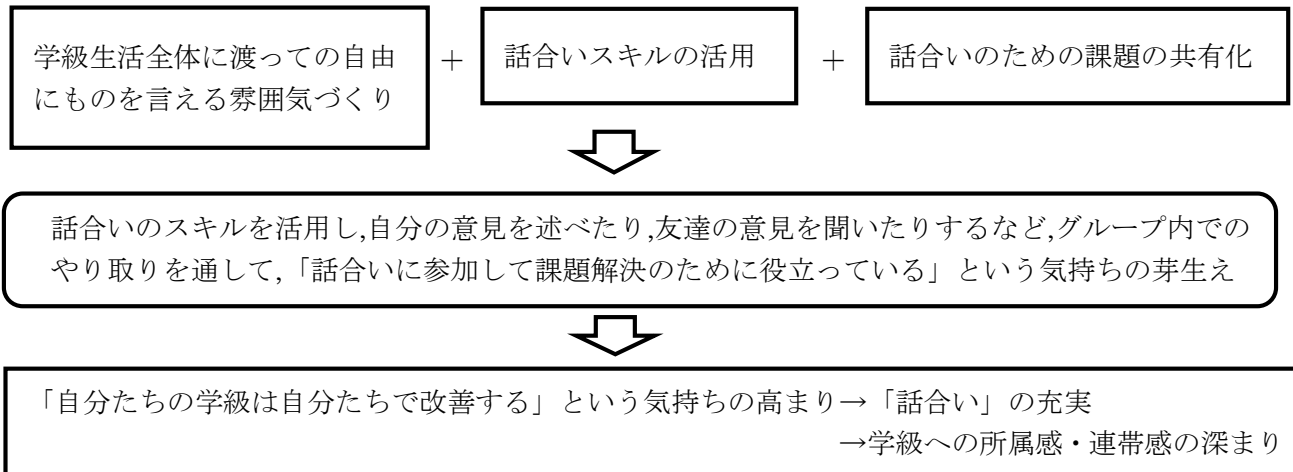
- ファシリテーションを導入することにより、論点を明確にし、議論を促進させる。

ファシリテーションを導入する際に話し合い活動を行う3～4人のうちの1人が担うファシリテーターの育成が必要である。授業、学級活動や道徳の時間などペアになり、教師が提示したテーマについて意見交換をする。その後、意見の内容についてお互いに質問する。質問はオープン・クエスチョン。例えば、「〇〇というത്?」「どんな感じ?」「もう少し詳しくおしえてください。」など意図的に繰り返すことで、「傾聴する力」を育成していく。

グループ全員が話し合いに参加するためにファシリテーターが聞き手としての態度、出てきた意見をつなぎ、話し合いの雰囲気をコントロールできるよう教師が見取り、その話し合いの場面で支援することを積み重ねる。時間はかかるが、授業や道徳の時間で全体が話し合いの雰囲気を作り、表情や振り返りシートの内容からも変容が見られてきているので、話し合いを充実させるための方法の1つとして有効であると考えられる。

また、教師は出てきた意見を全体で整理し共有する過程を経験し意見を広げていくことが大切である。「交流」と「検討」の視点で話し合いを行うためのコーディネートする力を身に付けていくことが必要である。

- 1 学級活動「学級生活を見つめよう」(第1学年)
- 2 「話し合い」充実のための工夫(アイデア)



3 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ①学級生活を振り返り、「よい点」「改善点」を明らかにする。
- ②よい点は伸ばす一方、改善の具体的方法を考え、理解し、活動への意欲を持つ。

(2) 本時の手だて

①自分の意見を持たせるために

話し合いを始める前に自分の考えを周囲に説明できるように、見通しを持たせる時間を設け、考えを付箋に書かせる。

②話し合いスキルの活用

この授業に限らず、年度当初から「発言の仕方」や「聞き方の例」などを示し、話し合いを通して、実践し、スキルを身につけさせる。特に、「聞く力」をつけることで話し合いを深められるようにする。

話し合いを活発にするための聞き方

1. 相手の言葉をオウム返しする。(例) ○○さんの意見は……ですね。
2. 相手の話を要約し、確認する。(例) 今の話を一言で言うと……ということですか？
3. 話し合った内容について、共通点と相違点を確認する。
(例) 私と○○さんは……というところは違いましたが、○○という意見にまとまりました。
4. 相手の意見に対し、質問したり、アドバイスしたりする。
(例) ……とはどういうことですか？……というところは○○してみてもいいですか？
5. メモをとりながら聞く。(要点だけを書く。自分の考えと比べながら聞く。)

③話し合いのための議題の共有化

事前に、学級の様子を振り返るアンケートを実施する。授業の導入で生徒にアンケートの結果を伝える。アンケートにより、学級生活の「よい点」、特に「改善点」を知ることによって、話し合いのための議題を共有化する。

学級の様子を振り返ろう！ ☆次の項目について、学級のみんなどはどうだったか考え、下の表の当てはまる数字を○で囲もう。

- | | | | | |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| ①係や委員会の仕事、給食当番や清掃などに責任を持って取り組んだか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ②教科などの学習に、みんなが積極的に取り組んだか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ③他の係や委員会、当番の人によく協力したか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ④学級の仲間を助け、学級活動に協力したか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑤学級の仲間のよくない点をみたら注意したか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑥学級や班での話し合いに積極的に参加したか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑦学級(学校)のルールを守って生活、行動したか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑧やるべきことが分かっている、そう行動したか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑨学級をよくしていこうという気持ちを持っていたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑩「クラスの一員だ」ということを意識して生活したか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

(生徒に行った10のアンケート)

4 授業の実際

◇「見通すの場面」

本時のめあてをつかむ

- T: 文化祭が終わって11月に入りました。みなさんはクラスでの生活は楽しいですか？
- C: 楽しいときもあるし、ちょっとな・・・と思うときもあります。

T : そうですね。先週、みなさんに「学級生活に関するアンケート」をとりました。今日は結果を発表します。

(結果をグラフにまとめて掲示) みなさんはこんなふう感じているようですね。

C : 思ったよりも「よく当てはまる」とか「当てはまる」という人が多いんだなあ。

T : そうですね。

C : でも⑤の質問(「学級の仲間のよくない点を見たら注意したか」)では、「やや当てはまる」と答えた人がクラスの1/4以上いるよ。

T : アンケートの結果から見ると、学級生活でよい点もたくさんあるけど、問題点もあるようですね。今日はそこに焦点を当てていきましょう。

めあて：学級生活を見つめ直し、クラスを改造しよう。

T : いいところはそのままに、直した方がいい部分は直して、もっと居心地のいいクラスにしていきたいですね。アンケートだけでは具体的な場面が見えません。「クラスのいいところ」と「直した方がいい所」を付箋に書いて下さい。その後、グループで話し合いをしましょう。

◇「話し合い」の場面

C 1 : まずは、「クラスのよいところ」をC 2 さんから発表して下さい。

C 2 : 教科係や給食当番などの仕事をきちんとやることができるよ。

C 3 : 私もC 2 さんと同じこと書いた。忘れてると「仕事やった？」と声をかけてくれる・・・(続く)

C 1 : 次に「直さなければならない所」を言ってください。

C 2 : ベル着ができないところです。最近は頻繁で、特に5校時目の移動教室に遅れています。

C 3 : 給食当番なのに、手洗い場で他のクラスの人としゃべっていて当番に遅れる人がいます。

C 4 : 登校時間がぎりぎりな上、席についても友達と話してばかりで朝読の時間にバックなどを片付けている人もいます。

C 1 : 分かりました。今の話し合いを一言で言うと「時間にルーズ」「優先順位がつけられない」ということではないですか？記録のC 4 さん、グルーピングして、シートにタイトルを書いてください・・・(続く)

T : グループでの話し合ったことを発表してください。学級委員お願いします。

*** 以下が各グループでの話し合いをまとめたもの ***

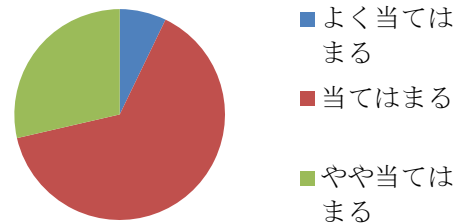
クラスのいいところ

- 助け合いができる。
- 責任感がある。
- 協力できて男女の仲がよい。
- 明るい。
- 意見がたくさん出る。

クラスの直さなければならないところ

- けじめがない時もある。(授業と休み時間の区別)
 - 給食の準備が遅い。食べるのが遅い。
 - 時間にルーズで優先順位がつけられない。
 - だめだと思っても注意しないところ。
- ⇒「だめなことはだめ!」と言おう!自分はクラスの一員だということを意識して生活しよう!

⑤ 学級の仲間のよくない点を見たら注意したか。



(話し合いの様子)

5 成果と課題

○話し合いのための事前アンケートは、クラス全体で議題を共有化するのに役立つことが改めて分かった。話し合い活動を積み重ね、話し合い活動のよさや自分たちの成長を実感することが大事だと思った。この後、生徒同士で「今やらないと時間に間に合わない」などと声をかける姿が見られるようになった。

●話し合いが深まらない原因に、あらかじめ用意した自分の意見は言うが、相手の意見に質問したり反論したりできないことが挙げられる。「話し合いを活発にするための聞き方」を示しているがこれらのスキルが身につけていない生徒も多い。各教科や学級活動の中に計画的に話し合い活動を取り入れ、多くの機会を与え使うことで慣れさせ身につけさせたい。また、どんなグループ構成になっても話し合いを進めることができるよう親和的な学級の雰囲気づくりを行い、望ましい人間関係を構築していく必要がある。

